

発行者

兵庫県立総合リハビリテーションセンター
リハビリテーション中央病院
〒651-2181 神戸市西区曙町1070
TEL (078) 927-2727
FAX (078) 925-9203

ホームページ <http://www.hwc.or.jp/hospital/>

さんぼみち



パーキンソン病について

神経内科

パーキンソン病という病気をご存知でしょうか。稀な病気と思われがちですが決して稀な病気ではありません。

今回は、このパーキンソン病についてお話しします。パーキンソン病は、脳の中のドパミンという物質が減るために、脳から運動の指令がうまく伝わらなくなる病気です。症状としては、手や足がじっとしている時に震える振戦、筋肉が固く動きがぎこちなくなる固縮、全ての動作が遅くなる無動、身体のバランスが取りにくくなる姿勢反射障害の4つが代表的です。歩き方が小刻みで、前のめりで、最初の一步が出にくく歩行は特徴的です。一般には片方の手足の振戦から出現し、症状は進行していきます。これらの症状に気付いたら早めに医師の診察を受けてください。パーキンソン病は今だ不明な点も多く根治療法はありません。

しかし、その症状をコントロールする薬は随分進歩し、数種類の作用の異なる薬があります。医師がどの薬を選ぶかは、患者さんの年齢、病気の重さ、社会的環境等を考慮し、患者さんと相談しながら決めていくようにしていますので、安心して相談して下さい。



体内からの放射線

放射線科

私たちのからだの中には、微量の放射性物質が含まれていて、からだの組織・臓器はごくわずかではありますが、体内で発生する放射線を常に浴びています。この放射性物質は、私たちが、日頃何気なく口にしている水や食物を介して体内に取り込まれたものです。

体内の代表的な放射性物質は、カリウム 40です。カリウムは生物には必須

の元素で、野菜などの植物が生長する時、地中のカリウムを取り込みますが、その中に天然の放射性カリウムが含まれているのです。だからと言って、カリウムの少ないものばかりを食べていると、かえって代謝異常を起こしてしまいます。

確かに、私たちは天然放射性物質を含んだ食物を毎日食べ続けているわけですが、摂取した放射性物質は、一方では体外への排出も行われていますので、取り込む量と排出される量の釣り合ったところでバランスが保たれ、一方的に放射能レベルが上がり続けることはありません。また、放射性物質には半減期で表される寿命があり、体内で徐々に減少していきます。

以上のことから、天然放射性物質を含んだ水や食物を私たちが毎日食べ続けていても、体内の放射能レベルは、一生の間ほぼ一定に保たれます。

新しい名称で“質の高い看護”を目指します

看護部

平成14年3月に『保健婦助産婦看護婦法』の一部が改正され、保健師・助産師・看護師・准看護師になりました。

当病院も4月1日より、長年慣れ親しんだ「看護婦」から「看護師」、「婦長」から「師長」に変更しましたが、私たち自身も慣れるまでにはまだ少し時間がかかりそうです。

看護師の「師」は、医師、教師などと同じく人々を導く仕事に就く人をさすという意味があるそうです。「呼び名が変わっただけ」と言われたいよう、より良い看護ケアが提供できるよう一層努力していきたいと思ひます。

各ナースステーションの職員紹介板に、それぞれの病棟から患者さまに熱いメッセージが掲げられていますが、その言葉のもつ意味を今一度心に刻み、患者さまとともに前進していきたいと思ひます。

これからも
よろしくお願ひ
します。

